

やってみることから始まる共創

～栃木県小山市の事例から学ぶ、まちとの関わり方～

新型コロナウイルス感染症拡大を経て、時差出勤やテレワークといった働き方の変化に合わせて、地方都市での生活についても様々な観点で見直される機会ともなりました。改めて自分の住む環境、身の回りの空間、「まち」について考えてみると、緊急事態宣言下では、これまではなかった規模での外出自粛の影響もあり、まちに人の賑わいがない状況が続いていましたが、同時にこれまでのまちづくりサロンでも取り上げてきたように、三密に配慮して公共空間をいかに活用するかなど、各種施策や制度含め、多方面で様々な新たな動きが見られました。

今回はコロナ禍以前より取り組みを進められてきた栃木県小山市における、住民発意の「おやま妄想会議」をきっかけに多様な公共空間の使い方につながった事例や、北海道の地方部においても課題となっている公共交通の利活用について、路線再編や紙ベースのアナログな手法を駆使し、MM（モビリティ・マネジメント）に取り組むことで、利用が大きく増加し、新たな連携も生まれつつある「おーバス」を事例に、多様な主体が共創した、まちとの関わり方の可能性について、参加者とのディスカッションも交えながら考えていきます。



日時：令和3年11月6日(土) 9:00 ~ 11:30

開催方法：オンライン (Zoomを利用・参加無料)

プログラム

司会・進行：阿部 正隆 (国土交通省 北海道開発局 建設部 道路計画課)

1 日本都市計画学会北海道支部まちづくり研究会の紹介

担当幹事 池ノ上 真一 (札幌国際大学 教授)



2 ゲストスピーカーからの事例紹介1 (25min)

「(仮)タイトル おやま妄想会議から始まる、みんなのまち」

今 佐和子 氏 (国土交通省 関東地方整備局 建政部 都市整備課長)



3 事例紹介1についての質疑応答

4 ゲストスピーカーからの事例紹介2 (45min)

「(仮)タイトル おーバスと市民の関係のリデザイン」

浅見 知秀 氏 (小山市 都市整備部 技監)



5 事例紹介2についての質疑応答

6 参加者とのディスカッション (30min)

7 本日のふりかえり

GUEST SPEAKER PROFILE

	<p>今 佐和子 こん さわこ 国土交通省 関東地方整備局 建政部 都市整備課長 大学院にて都市計画を勉強後、2010年IT企業に入社。2013年国土交通省入省。まちづくり推進課や新潟国道事務所を経て、2018年より約2年街路交通施設課にて、クルマ中心から人中心、ウォーカブルなまちづくりを全国に広める政策に携わる。育休を経て2021年7月より現職。</p>
	<p>浅見 知秀 あざみ ともひで 小山市 都市整備部 技監 2009年JR東日本入社、仙台配属時に東日本大震災を経験し震災復興に従事。2015年国土交通省に転職。2017年小山市に出向し、3年間都市整備部長として公共空間利活用によるウォーカブルなまちづくりを推進。2021年より現職。専門は交通計画、公共交通の利用促進。</p>

参加申込はこちらから

<https://cpij-hokkaido-fgpj-salon-2021-vol2.peatix.com>

